

第二種特定鳥獣管理計画（イノシシ）

第6期 資料編（案）

令和4年4月

和歌山県

1. イノシシ対策のこれまでの取組の経過

表1 これまでの管理計画の策定と対策の状況

* ●管理計画の策定、○県や国の政策の動きなど

年度	計画	内容	捕獲数 (頭)	うち 狩猟	うち 有害	被害額 (百万円)
H19	2007 第1期	●第1期保護管理計画(期間：H19.2.1～H21.3.31) 策定 ・イノシシの狩猟期間延長(11月15日から3月15日まで) ○県農作物鳥獣害対策アドバイザー研修を開始 ○狩猟免許取得支援事業(県単)創設、わな免許取得支援 ○鳥獣被害対策特別措置法が12月に制定	6,953	4,967	1,986	123
H20	2008 第1期	・イノシシ狩猟期間の延長(11月1日から3月15日まで) ○鳥獣被害防止総合対策交付金を国が創設	8,067	5,463	2,604	161
H21	2009 第2期	●第2期保護管理計画(期間：H21.4.1～H24.3.31) 策定 ・くくりわな12cm規制の緩和	9,184	5,645	3,539	132
H22	2010 第2期		13,966	7,236	6,730	184
H23	2011 第2期	○有害鳥獣捕獲支援事業(県単)の報奨金単価を引き上げ 銃15,000円、わな6,000円を想定した補助とする。 ○狩猟免許取得支援事業の補助対象に銃免許を追加 ○わな捕獲技術向上研修を開始	13,238	4,918	8,320	174
H24	2012 第3期	●第3期保護管理計画(期間：H24.4.1～H29.3.31) 策定 ○国が有害捕獲を支援する緊急捕獲事業を創設(H24.6～H27.3)まで	14,000	4,035	9,965	191
H25	2013 第3期	○狩猟の魅力セミナーを開始	13,049	4,411	8,638	174
H26	2014 第3期		13,652	4,004	9,648	163
H27	2015 第3期 第4期	●第4期管理計画(期間：H27.5.29～H29.3.31) 策定 ・鳥獣保護法が鳥獣保護管理法に改正されたことに伴う計画の名称変更 ○鳥獣保護管理法施行に伴い、指定管理鳥獣捕獲等事業が創設される。 ○鳥獣被害防止総合対策交付金(国庫)に緊急捕獲事業がメニュー化される	14,531	3,998	10,533	170
H28	2016 第4期	○狩猟体験研修を開始	18,633	4,771	13,862	169
H29	2017 第5期	●第5期管理計画(期間：H29.4.1～R3.3.31) 策定 ・年間17,000頭の捕獲を管理目標に明記	19,860	4,756	15,104	155
H30	2018 第5期		15,835	3,464	12,371	152
R1	2019 第5期	○わな捕獲技術向上研修を実践的な内容となるよう拡充 (専門事業者に委託) ○銃捕獲技術向上研修を開始	19,820	3,856	15,964	152
R2	2020 第5期	○紀の川市で野生イノシシの豚熱(CSF)陽性を初確認(R2.10.30) 以後、県下に拡大	19,337	3,014	16,323	129
R3	2020 第5期	○国が重点捕獲キャンペーンを実施(鳥獣交付金の加算措置等)				

2. イノシシの生態等

(1) 生態

イノシシは、1頭ないし数頭のメスとその子供で構成される群れをつくる。

オスは、生後1年ほどは群れで生活するが、性成熟を迎えると単独で行動する。

メスは通常、年1回、春から初夏にかけて平均4～5頭の子どもを出産する。

雑食性で、ドングリ、タケノコ、ヤマイモやクズの根茎、サワガニや昆虫などの小動物、多くの農作物のほか、腐敗果実など農作物残さや生ゴミ、水稻の二番穂、牧草等も食べる。行動範囲は3～5 km圏内とされ、餌場や隠れ場があれば定着する傾向にある。

鼻は餌を探すために土を掘ったり、障害物を動かすときにも使い、50～60Kg程度のもので持ち上げることができる。

(2) 生息分布

環境省の調査結果（令和2年）によると、イノシシは本州、四国、九州、沖縄に広く分布し、近年は東北、北陸、関東地方などでの分布が拡大している。

関西以西では一部市街地を除きほぼ全域に分布が拡大し

和歌山県では県内全域でイノシシの生息が確認されており、近年は市街地への出没も時々みられる。

写真（左 昼間に行動する成獣イノシシ、右 廃棄果実を餌場として集まるイノシシ）



3. 生息環境

(1) 地勢

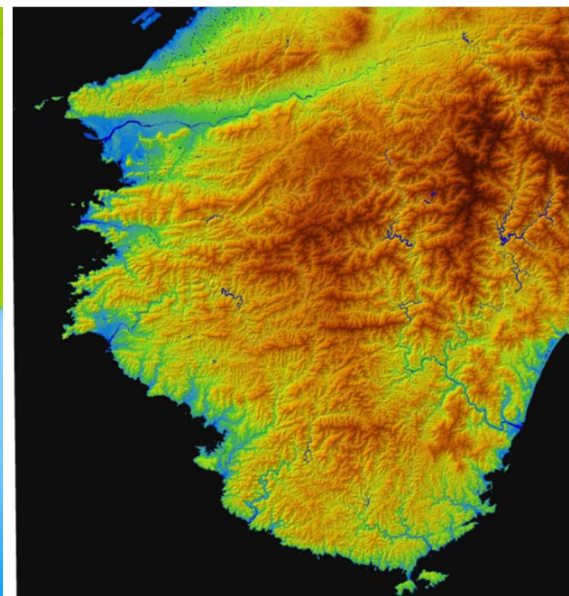
和歌山県は、紀伊半島の南西部に位置し、北は大阪府、東は奈良県及び三重県、南は熊野灘、西は紀伊水道に接している（図 1）。東西約 94 km、南北約 106 km に及び、総面積は 4,725 km² で日本国土の 1.25% を占めている。

大部分は紀伊山地を中核とする標高 1,000m 前後の山岳地帯（図 2）で、高野山、那智山など古代から親しまれている山々が多く、平地は少ないが諸河川の流域に開けている。

図 1 和歌山県の位置図



図 2 和歌山県の標高図(国土地理院)



(2) 気候

南部は暖流である黒潮の影響を受け、温暖で雨が多い太平洋気候区
北部は日照時間が長く年間を通じて降水量が少ない瀬戸内気候区

(3) 森林

県内の森林面積は、361,253ha（令和3年4月1日現在）。

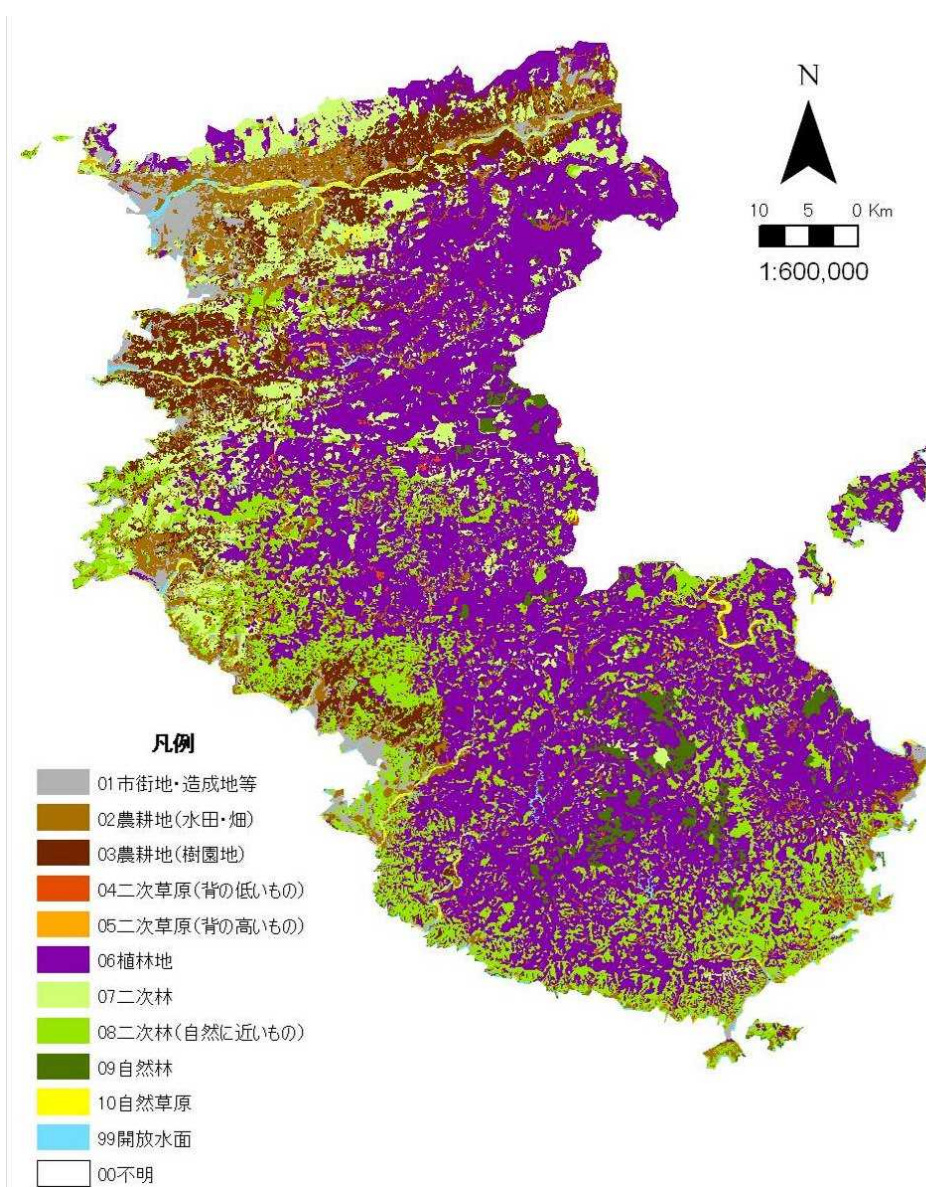
県土総合面積の76.5%が森林でそのうち95%が民有林。

民有林のうち60.3%スギやヒノキなどが植栽されている人工林である。

人工林の分布は、紀北地域で全体の18%、紀中地域で24%、紀南地域で58%を占め、奥山から海岸線付近まで広範囲にわたる。

天然林は、県南部の海岸沿いから内陸にかけてシイやカシ類などの常緑広葉樹林が広がり、標高600mあたりからは徐々に落葉広葉樹林が目立ち始め、1,000mを越える護摩壇山系などではブナ林なども見られる。県北部ではコナラなどの落葉広葉樹林が主となり、シイやカシ類との混交林も多くみられる。

図3 和歌山県の植生図



(4) 耕地面積（畑地や水田）等

耕地面積は令和2年度で31,800ha、県土総面積の6.7%を占める。

耕地は、紀ノ川流域の広い範囲や有田川、日高川流域に広がっている。

耕地面積のうち約60%以上を樹園地が占め、山間部の傾斜地での果樹栽培が多い。全国的にも特異な農業構造で、イノシシのすみかや身を隠す場所となっている森林等に隣接している耕地が多い。

荒廃農地面積は、年々増加し、令和2年度末時点で3,434haに達し、イノシシの生息場所が広がる一因となっている。

図4 園地の傾斜率の状況（第4次土地利用基盤整備基本調査から）

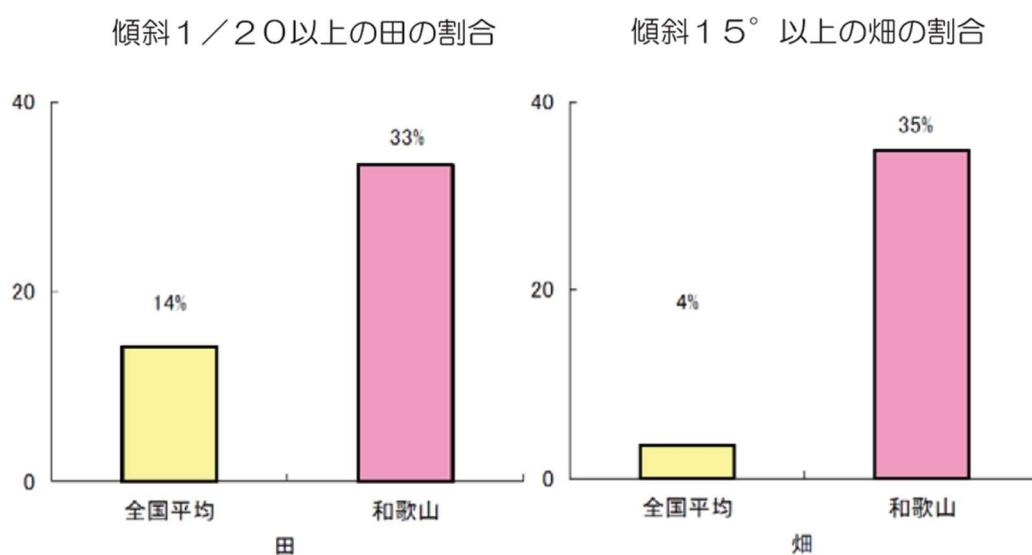
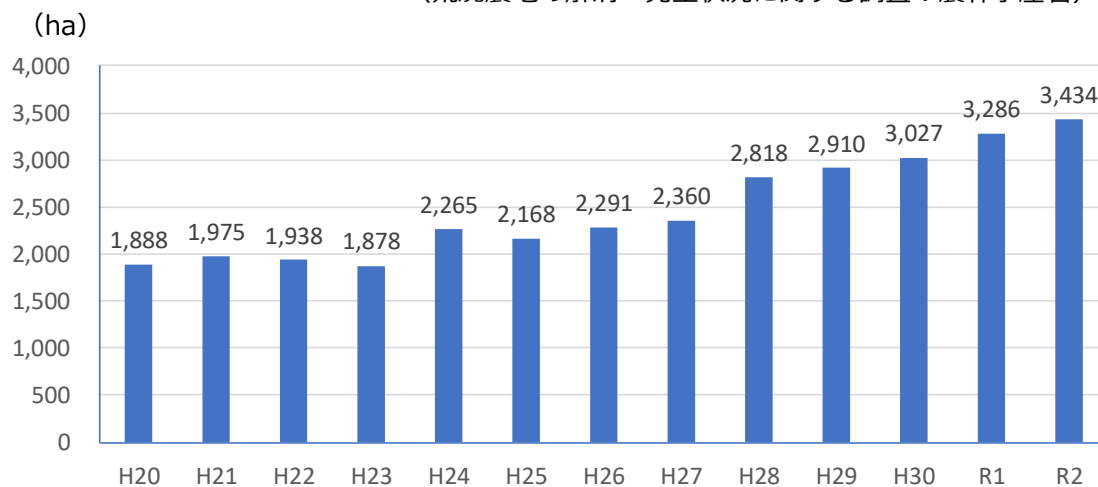


図5 県内の荒廃農地面積の推移

(荒廃農地の解消・発生状況に関する調査：農林水産省)



4. 捕獲に関するデータ（イノシシ）

図6 イノシシの捕獲数の推移（県全体） *有害捕獲、狩猟の合計

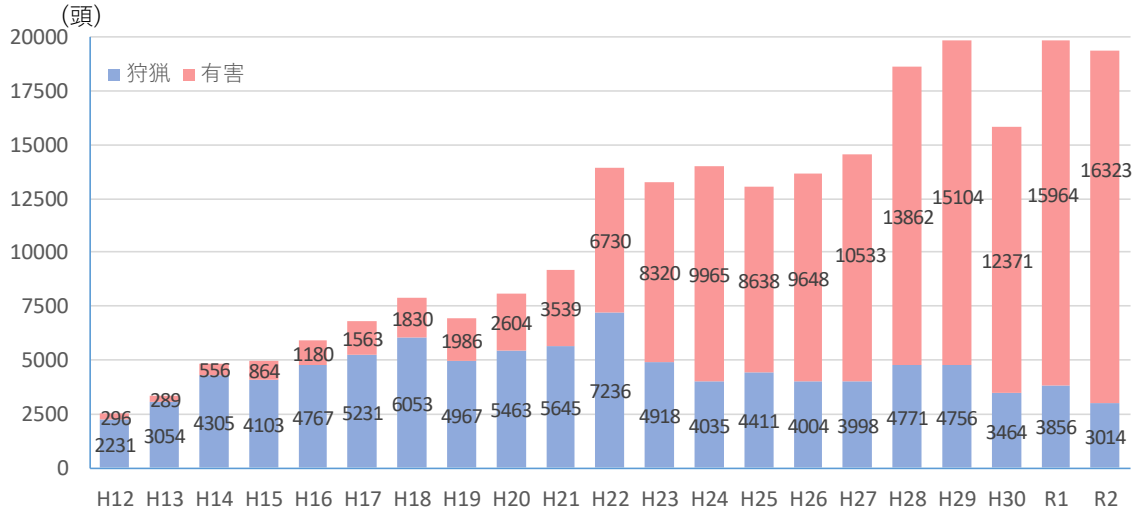


図7 有害鳥獣捕獲支援事業（県単）によるイノシシの捕獲方法の内訳

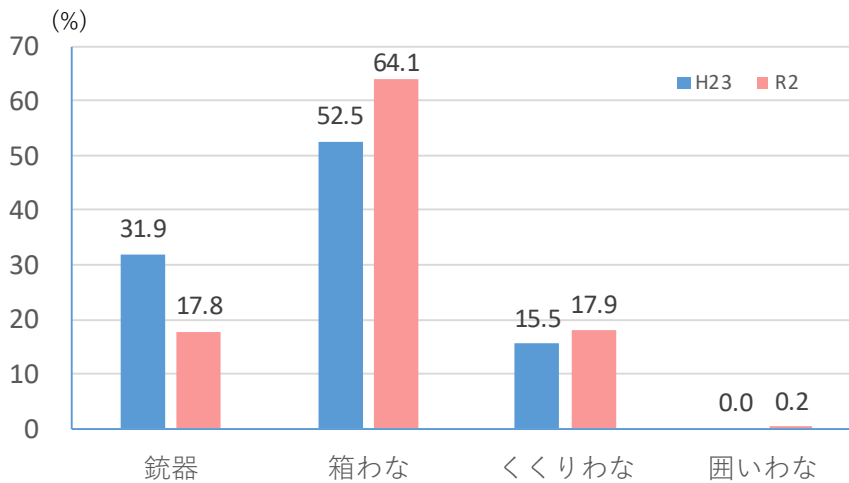


図8 イノシシの有害捕獲におけるオス・メス／成獣・幼獣の比率

*有害鳥獣統計の報告から、オス・メス及び成獣・幼獣の判別が明確にあったものを分析

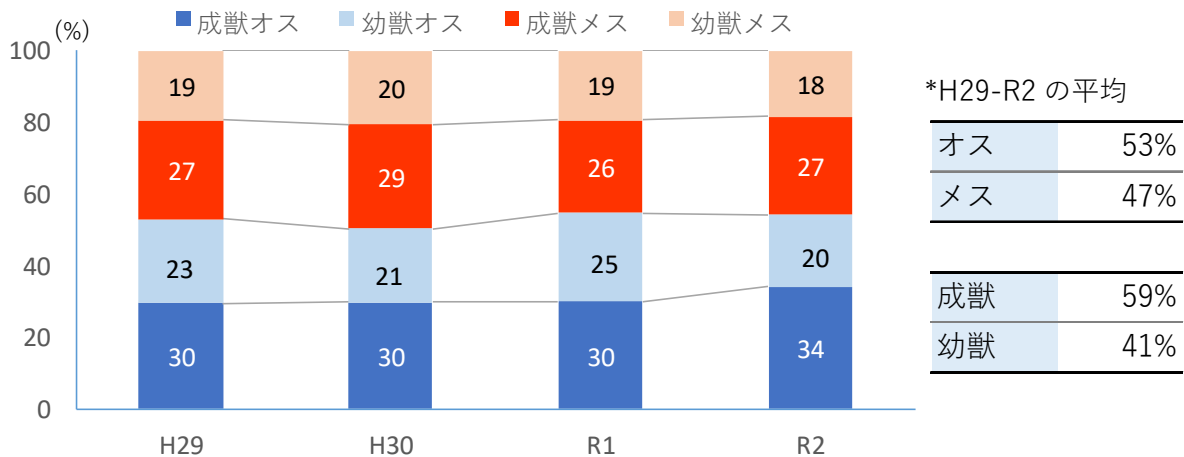


表2. 有害捕獲によるイノシシ捕獲数の推移（市町村別）

* 猟期中有害の○はイノシシに対して猟期に有害捕獲許可、△は鳥獣保護区域内のみ猟期中許可

（単位：頭）

地域	市町村名	猟期中有害	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	推移のグラフ
海草	和歌山市	○	625	474	560	519	857	575	829	996	1,048	968	1,220	
	海南市	○	305	365	397	511	564	672	820	1,042	945	1,214	1,413	
	紀美野町	○	504	281	542	544	640	452	1,161	587	753	808	510	
那賀	紀の川市		477	321	403	461	582	469	858	874	735	852	1,015	
	岩出市	○	110	6	138	63	222	89	379	281	372	197	241	
伊都	橋本市		0	87	287	470	501	482	592	764	635	683	1,000	
	かつらぎ町	△	365	332	615	671	676	622	739	816	816	758	962	
	九度山町		51	47	160	153	155	168	151	207	196	206	293	
	高野町		0	0	19	31	35	49	22	48	30	45	67	
有田	有田市	○	38	39	28	48	113	119	142	112	98	138	154	
	湯浅町	○	84	31	99	99	78	97	90	132	147	219	217	
	広川町	○	192	187	205	126	141	131	240	254	242	282	195	
	有田川町	○	612	492	804	663	808	695	1,670	1,189	1,375	1,564	1,334	
日高	御坊市	○	104	239	385	149	165	116	208	244	235	256	233	
	美浜町	○	40	36	14	13	1	7	69	58	43	31	86	
	日高町	○	314	552	434	322	318	403	628	557	388	489	358	
	由良町	○	244	204	214	131	319	346	490	473	245	458	299	
	印南町	○	399	1,083	745	662	746	803	798	1,121	662	843	567	
	みなべ町	○	273	801	693	586	627	997	870	1,236	693	861	745	
	日高川町	○	672	1,082	1,488	950	701	869	900	1,078	731	933	998	
西牟婁	田辺市	○	573	611	727	545	607	1,060	877	1,243	868	2,862	1,476	
	白浜町		212	285	258	202	236	387	373	475	242	261	463	
	上富田町		109	156	160	109	160	248	186	191	159	303	388	
	すさみ町		66	205	73	92	56	108	155	139	79	165	401	
東牟婁	新宮市	○	188	47	72	85	88	158	134	241	143	141	285	
	那智勝浦町	○	81	168	228	204	134	197	176	307	186	83	424	
	太地町	○	1	10	3	15	14	26	42	35	26	46	53	
	古座川町	○	12	126	109	28	33	63	69	112	106	78	314	
	北山村	○	6	4	15	12	10	22	45	96	35	50	53	
	串本町	○	73	49	90	174	61	103	149	196	138	170	559	
県合計			6,730	8,320	9,965	8,638	9,648	10,533	13,862	15,104	12,371	15,964	16,323	

5. 狩猟者に関するデータ

図9 県内の狩猟免許所持者数の推移

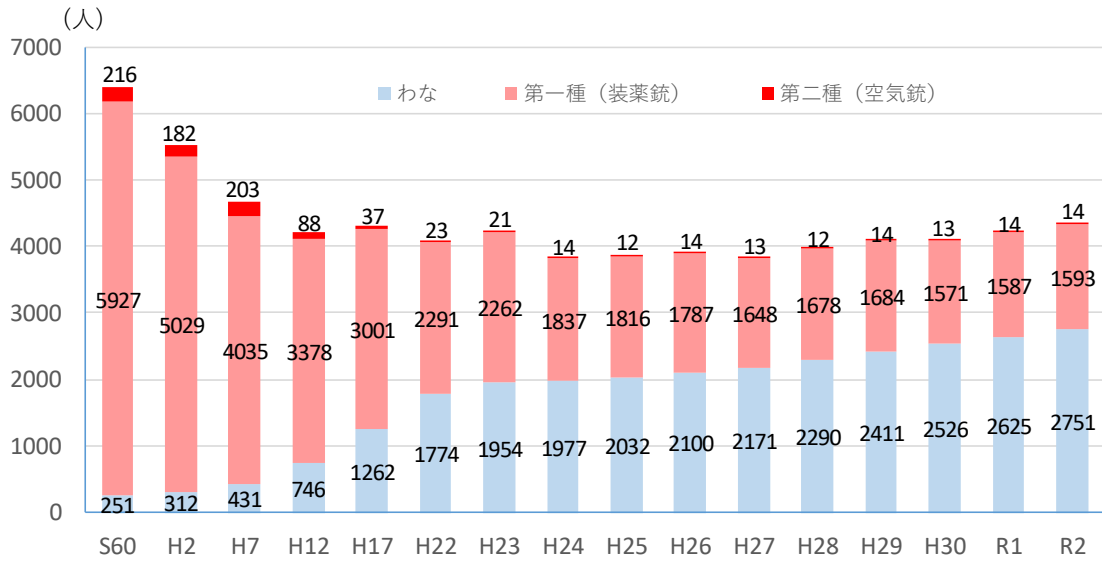


図10 狩猟者登録数の推移

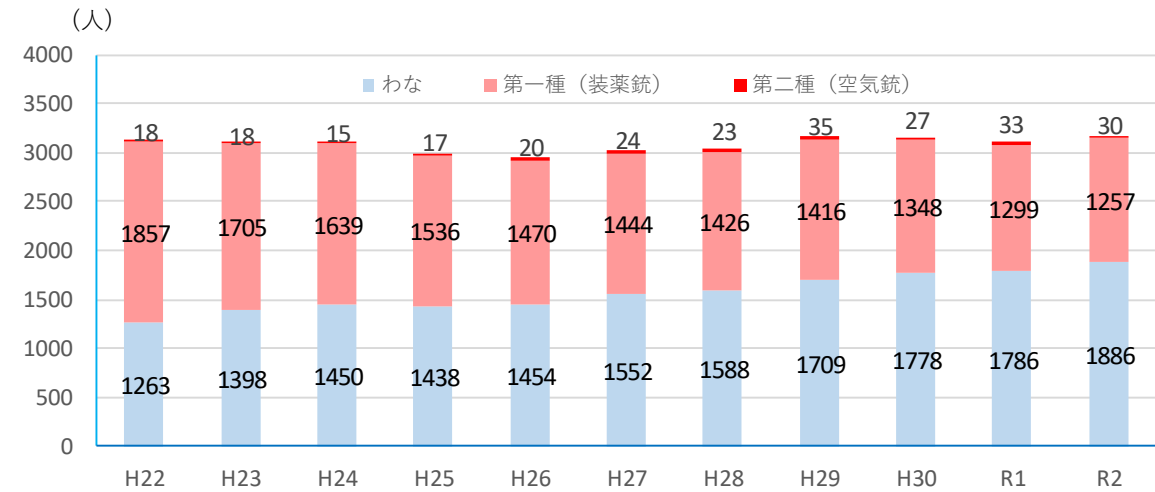


図10-1 一般社団法人和歌山県猟友会会員数の推移

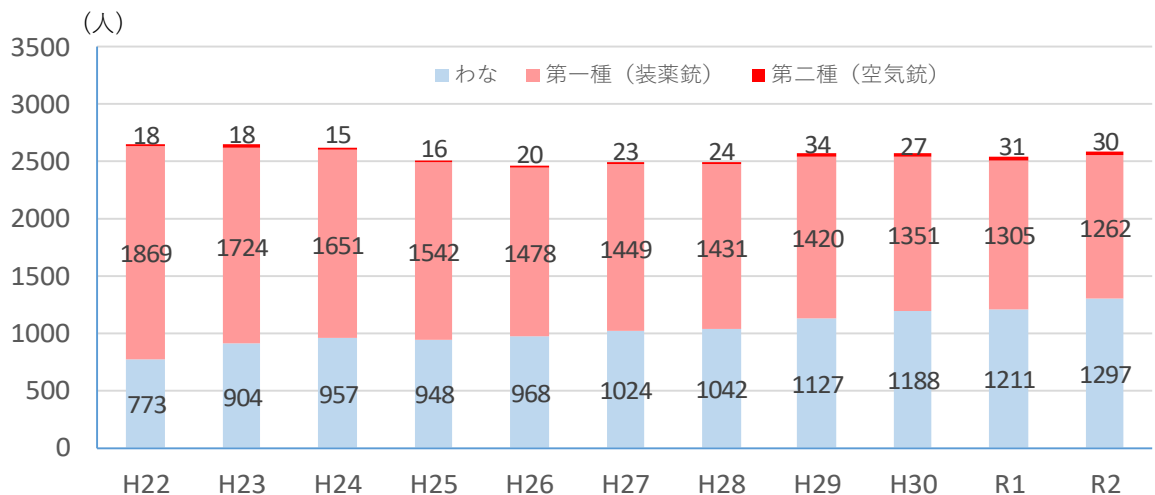
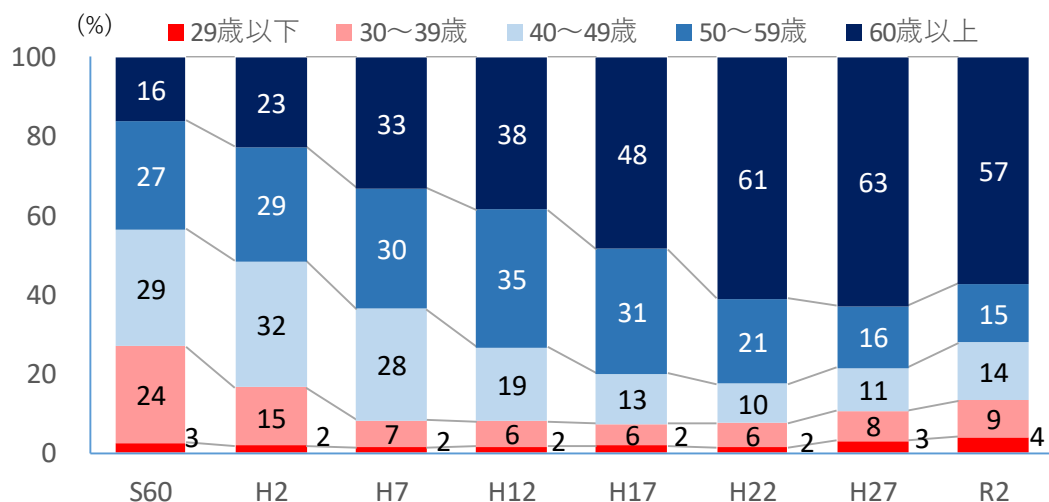


図 11 狩猟免許所持者の年齢構成比の推移



6. 防護柵の設置の状況

図 12 県単事業、国庫事業（鳥獣交付金）による防護柵設置実績の推移

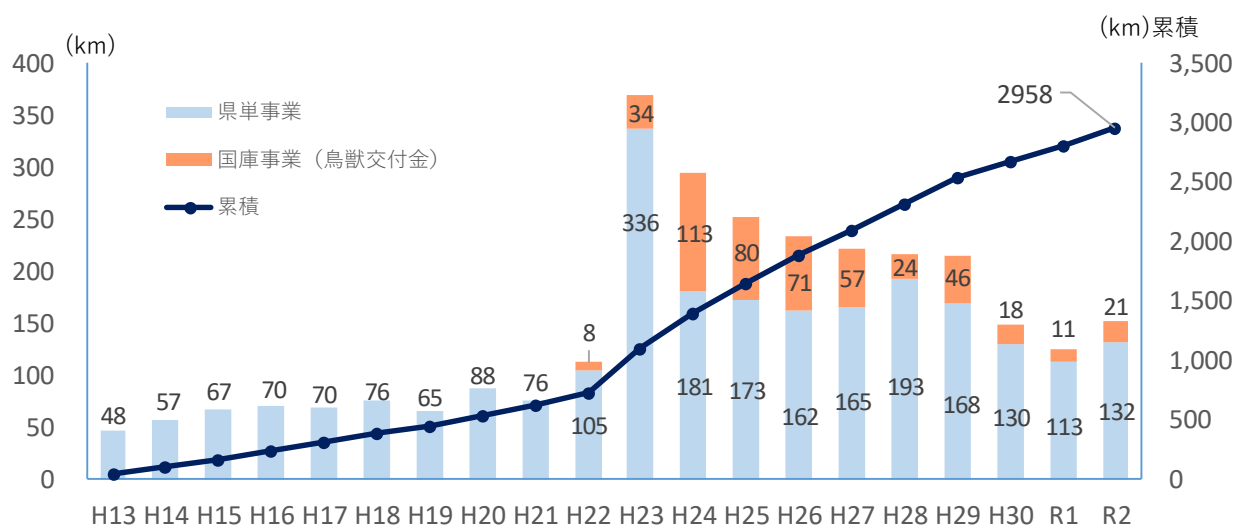


写真 イノシシ用の防護柵

*傾斜地の果樹園で施行されるケースが多く、軽量のワイヤーメッシュが使用される場合が多い。



7. 被害防止計画に基づく市町村の体制整備の状況

表3 被害防止計画に基づく市町村の実施隊の設置状況等（令和3年4月1日時点）

市町村	計画 期間	実施隊 設置状況	隊員数 (人)	イノシシ 対象	イノシシ被害額（千円）			イノシシ捕獲計画数（頭）						
					現状	目標	低減率 (%)	R1	R2	R3	R4	R5		
和歌山市	R3-R5	H25.2.1	6	○	R1	4,653	R5	4,175	10	0	0	1,200	1,200	1,200
海南市	R2-R4	H24.11.1	36	○	H30	12,279	R4	10,000	19	0	1,600	1,600	1,600	0
紀美野町	R2-R4	H27.4.1	37	○	H30	17,401	R4	13,921	20	0	900	900	900	0
紀の川市	R2-R4	H26.4.1	48	○	H30	32,957	R4	28,013	15	0	1,200	1,200	1,200	0
岩出市	R2-R4	H27.8.3	48	○	H30	313	R4	280	11	0	400	400	400	0
橋本市	R2-R4	H26.10.3	162	○	H30	6,733	R4	4,713	30	0	1,000	1,000	1,000	0
かつらぎ町	R2-R4	H26.8.26	133	○	H30	15,049	R4	10,534	30	0	1,200	1,200	1,200	0
九度山町	R2-R4	H26.9.1	37	○	H30	8,856	R4	7,085	20	0	310	310	310	0
高野町	R2-R4	H27.8.20	13	○	H30	170	R4	119	30	0	70	70	70	0
有田市	R3-R5	H25.3.18	12	○	R1	1,733	R5	1,550	11	0	0	160	180	200
湯浅町	R2-R4	H24.8.17	17	○	H30	15,734	R4	14,161	10	0	220	220	220	0
広川町	R2-R4	H24.2.27	22	○	H30	3,843	R4	3,030	21	0	480	480	480	0
有田川町	R2-R4	H24.2.8	100	○	H30	22,355	R4	15,608	30	0	1,500	1,400	1,400	0
御坊市	R3-R5		0	○	R1	1,550	R5	1,100	29	0	0	300	300	300
美浜町	R3-R5		0	○	R1	66	R5	50	24	0	0	150	150	150
日高町	R3-R5	H25.4.1	2	○	R1	2,337	R5	2,103	10	0	0	550	550	550
由良町	R2-R4		0	○	H30	1,860	R4	1,674	10	0	400	400	400	0
印南町	R2-R4	H25.8.27	33	○	H30	4,475	R4	3,131	30	0	1,500	1,500	1,500	0
みなべ町	R2-R4		0	○	H30	1,247	R4	1,122	10	0	1,200	1,200	1,200	0
日高川町	R2-R4	H24.5.23	3	○	H30	3,785	R4	3,329	12	0	1,300	1,300	1,300	0
田辺市	R3-R5	H30.3.26	142	○	R1	5,506	R5	4,500	18	0	0	2,030	2,030	2,030
白浜町	R3-R5		0	○	R1	810	R5	704	13	0	0	580	580	580
上富田町	R1-R3		0	○	H29	1,165	R3	1,045	10	300	380	380	0	0
すさみ町	R3-R5	H24.4.1	10	○	R1	61	R5	57	7	0	0	450	450	450
新宮市	R3-R5		0	○	R1	740	R5	629	15	0	0	300	300	300
那智勝浦町	R2-R4	H25.4.1	28	○	H30	2,124	R4	1,912	10	0	450	450	450	0
太地町	R3-R5		0	○	R1	110	R5	80	27	0	0	70	70	70
古座川町	R3-R5	H26.6.23	20	○	R1	1,537	R5	1,383	10	0	0	350	350	350
北山村	R3-R5		0	○	R1	141	R5	113	20	0	0	65	65	65
串本町	R2-R4		0	○	H30	442	R4	397	10	0	600	420	420	0
合計			909	30		170,032		136,518	20	300	14,710	20,635	20,275	6,245

8. 農作物被害の状況（イノシシ）

図 13 イノシシによる農作物被害額の推移（県全体）

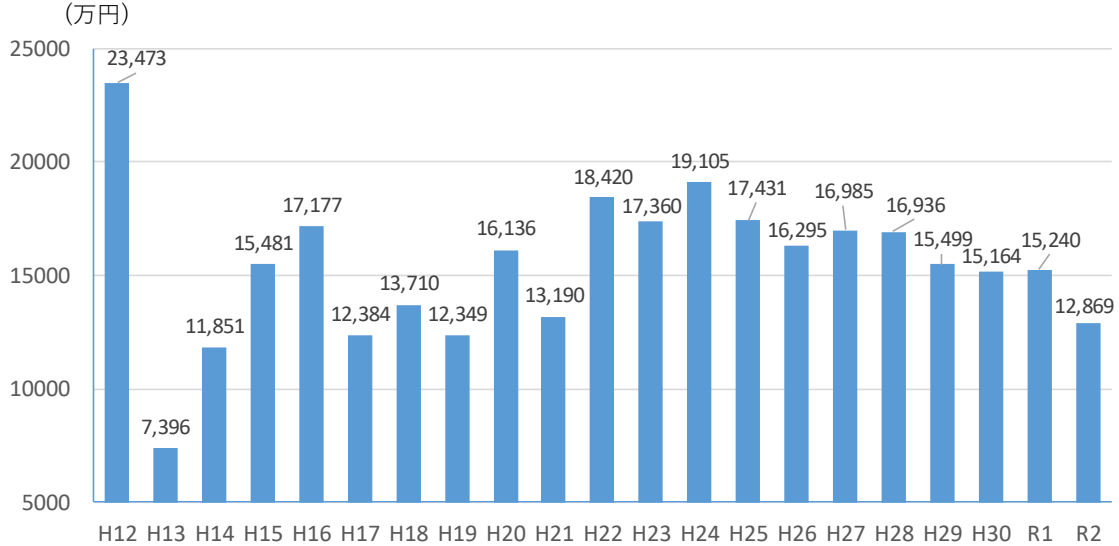


表 4 イノシシによる農作物被害額の推移（市町村別）

（単位：千円）

地域	市町村	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	推移の グラフ	増減率 の平均	被害額/ 耕地面積
海草	和歌山市	4,316	6,290	6,739	6,652	6,454	5,031	5,053	4,813	4,439	4,653	4,962		2	1.8
	海南市	45,204	31,180	31,300	23,270	19,720	22,492	19,363	16,523	12,279	11,709	10,426		▲13	4.6
	紀美野町	4,170	2,256	12,600	11,340	6,280	4,396	6,299	5,237	4,709	4,629	4,376		38	5.8
那賀	紀の川市	40,620	36,828	35,921	34,754	36,936	36,427	36,704	31,327	32,957	30,319	16,458		▲3	3.6
	岩出市	100	84	175	190	921	190	162	92	313	525	740		73	1.4
伊都	橋本市	7,093	6,936	7,901	8,691	9,209	8,840	11,133	8,407	6,733	6,656	5,004		0	3.6
	かつらぎ町	9,130	23,809	22,890	20,233	20,214	17,879	18,414	18,262	15,049	14,113	16,265		12	9.7
	九度山町	5,810	5,474	9,266	9,304	5,083	12,192	6,689	6,150	8,856	14,933	6,124		24	14.1
	高野町	970	0	471	358	554	211	67	125	170	298	334		▲0	4.8
有田	有田市	2,890	2,432	2,388	1,965	1,870	2,408	1,996	2,025	1,816	1,733	1,579		▲5	1.3
	湯浅町	6,000	6,300	6,540	6,800	6,080	5,550	11,499	10,877	15,734	11,523	9,993		13	17.3
	広川町	3,600	3,652	4,581	4,700	4,888	4,675	3,692	4,186	3,803	3,900	4,627		2	7.4
	有田川町	15,000	13,014	17,591	17,157	16,759	19,538	20,444	20,858	21,995	21,725	19,873		5	6.6
日高	御坊市	1,900	2,200	1,800	1,450	1,500	1,480	1,380	1,380	1,320	1,550	2,650		▲1	3.2
	美浜町	225	300	370	98	255	255	250	184	75	66	115		5	0.6
	日高町	2,507	2,583	1,780	2,452	2,298	2,574	1,848	2,165	1,593	2,337	1,448		3	2.8
	由良町	3,390	3,656	3,733	3,767	3,292	3,289	2,183	1,966	1,860	1,984	2,739		▲5	7.8
	印南町	1,805	2,846	2,521	2,837	2,635	2,724	3,250	2,486	2,159	4,474	4,249		16	4.6
	みなべ町	1,623	1,965	1,870	1,424	1,244	1,303	1,248	1,563	1,247	830	954		▲5	0.4
西牟婁	日高川町	9,356	5,634	5,452	5,347	4,946	4,514	4,447	4,225	3,785	3,408	2,941		▲10	3.0
	田辺市	7,885	7,173	6,228	5,373	4,696	5,903	5,657	5,722	5,175	5,506	5,595		▲3	1.6
	白浜町	2,554	2,628	2,102	332	247	578	707	1,171	738	810	1,423		8	2.2
	上富田町	146	231	666	744	2,294	2,595	1,459	1,165	1,106	759	1,162		42	1.8
東牟婁	すさみ町	531	413	118	73	263	68	78	61	43	61	162		7	0.8
	新宮市	1,719	1,076	683	688	771	929	548	572	530	740	751		▲5	4.6
	那智勝浦町	4,973	4,045	3,829	3,355	2,506	2,383	3,318	2,256	2,124	2,072	2,053		▲8	6.3
	太地町	213	148	837	256	133	126	127	116	107	110	114		33	8.8
	古座川町	239	247	153	159	268	249	285	285	298	302	662		6	4.8
県計	北山村	39	58	62	6	50	94	202	148	181	141	120		97	8.0
	串本町	188	138	480	535	579	952	858	641	442	537	789		29	3.5
県計		184,196	173,596	191,047	174,310	162,945	169,845	169,360	154,988	151,636	152,403	128,688		▲1.9	4.0

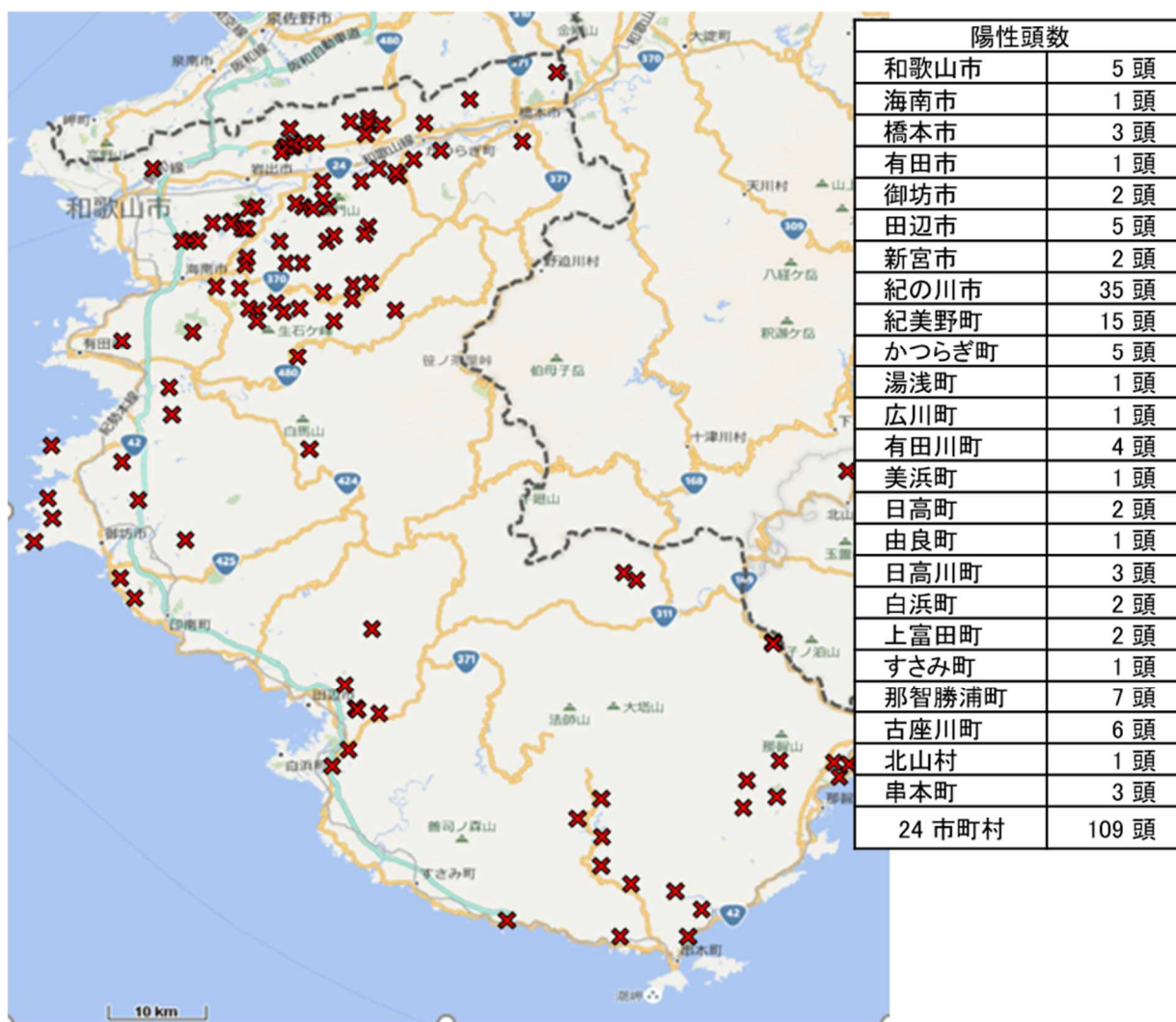
表 5 令和 2 年度のイノシシによる農作物別の被害の状況（県全体）

	稲	果樹	野菜	いも類	豆類	飼料作物	その他	合計
被害面積(ha)	41	129	11	5	1	2	1	190
被害量(t)	107	729	75	24	2	0	10	947
被害金額（千円）	10,343	102,981	8740	5401	709	78	436	128,688
構成比率（%） （被害金額ベース）	8	80	7	4	1	0	0	100

9. 県下のイノシシ豚熱感染生の状況

図 14 県下豚熱陽性のイノシシの確認地点（令和 3 年 12 月 3 日現在）

×は確認地点



10. 県下のイノシシの生息・分布の状況

表6 イノシシ推定生息数（県全体）

（単位：頭）

年度	平均	標準偏差	5%点	25%点	中央値	75%点	95%点
H24(2012)	72,013	55,867	27,681	38,841	54,950	85,430	170,443
H25(2013)	71,873	56,311	27,444	37,946	53,997	85,724	172,295
H26(2014)	72,916	56,665	27,991	38,463	54,934	87,184	175,054
H27(2015)	77,512	57,255	30,316	41,712	59,243	93,390	181,827
H28(2016)	76,146	56,403	29,864	41,245	58,293	91,826	178,928
H29(2017)	75,102	55,144	29,526	41,055	57,884	89,927	173,409
H30(2018)	68,926	54,555	26,415	35,960	51,327	82,238	166,575
R01(2019)	69,198	53,414	26,549	36,842	52,458	82,777	164,433
R02(2020)	64,720	52,503	23,804	33,727	48,351	76,762	157,462

表7 イノシシの自然増加率

年度	平均	標準偏差	5%点	25%点	中央値	75%点	95%点
H25(2013)	1.248	0.159	1.031	1.125	1.225	1.352	1.542
H26(2014)	1.285	0.167	1.050	1.155	1.262	1.394	1.595
H27(2015)	1.359	0.189	1.076	1.215	1.342	1.487	1.693
H28(2016)	1.318	0.199	1.050	1.155	1.287	1.450	1.686
H29(2017)	1.351	0.205	1.061	1.189	1.323	1.497	1.717
H30(2018)	1.192	0.156	1.008	1.070	1.154	1.285	1.494
R01(2019)	1.419	0.235	1.069	1.233	1.400	1.588	1.830
R02(2020)	1.318	0.214	1.033	1.143	1.288	1.457	1.708

ベイズ推定による個体数の経年変化の算出の考え方

ある年のイノシシの個体数は、前年の個体数に増加率をかけ、そこから捕獲数を差し引くことで求めることができる。概念としては、以下のような式で表現できる。

$$\text{ある年の個体数} = \text{前年の個体数} \times \text{増加率} - \text{捕獲数}$$

困われた項目が収集したデータとして存在する観測値、網掛けされた項目が不明な変数で推定する対象（推定するためのデータとして、捕獲数、目撃効率、森林面積を使用）となる。

この式を用いると、前年の個体数と増加率が明らかであれば、ある年の個体数を導くことができる。なお、実際の推定時には、式の中で、内的自然増加率とよばれるイノシシの年間での最大増加率を推定しているほか、密度効果(※1)を含めている。

(※1) 密度効果 … 個体数が増加すると増加率が低下する現象。エサなど資源をめぐる競争によって発生

図 15 イノシシの猟期銃猟における目撃効率（平成 28 年、令和元年度）

*目撃効率は捕獲数を含んだ目撃数を合計出猟人数（合計レコード数）で割ったものとした。計算式は以下のとおり

$$\text{目撃効率} = (\text{銃捕獲数} + \text{目撃数}) / \text{合計出猟日数}$$

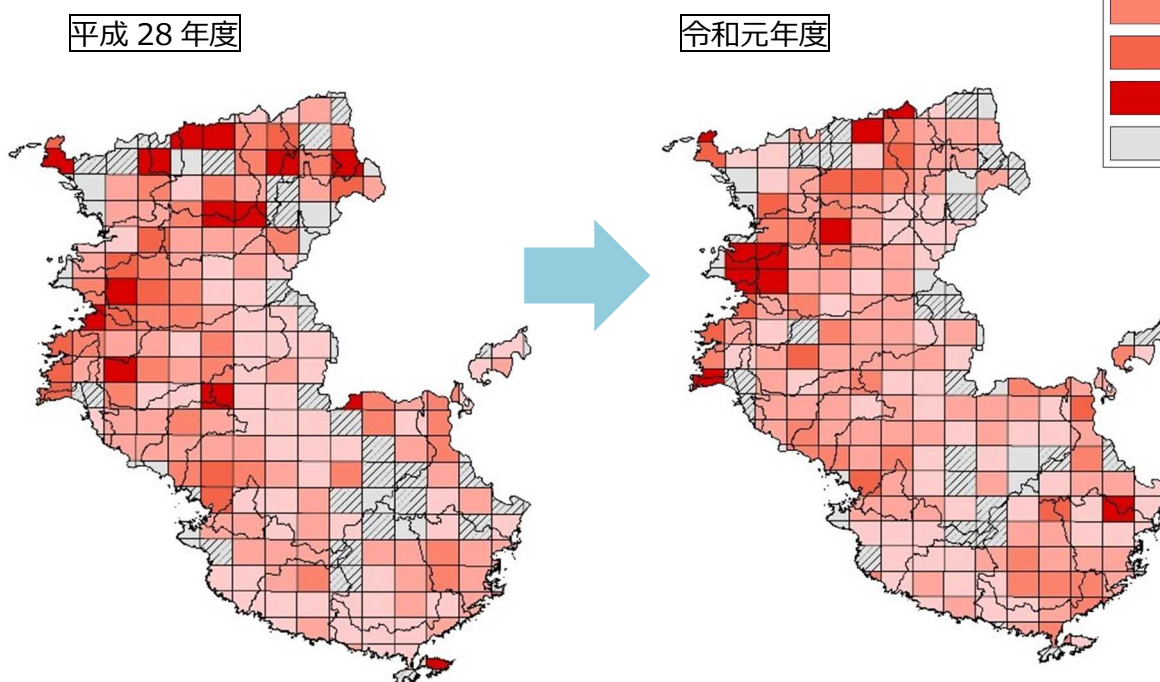
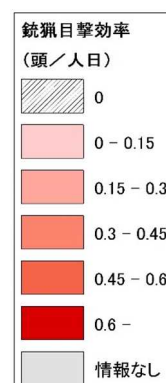


図 16 イノシシの猟期銃猟における目撃効率の変化率（平成 28 年度から令和元年度）

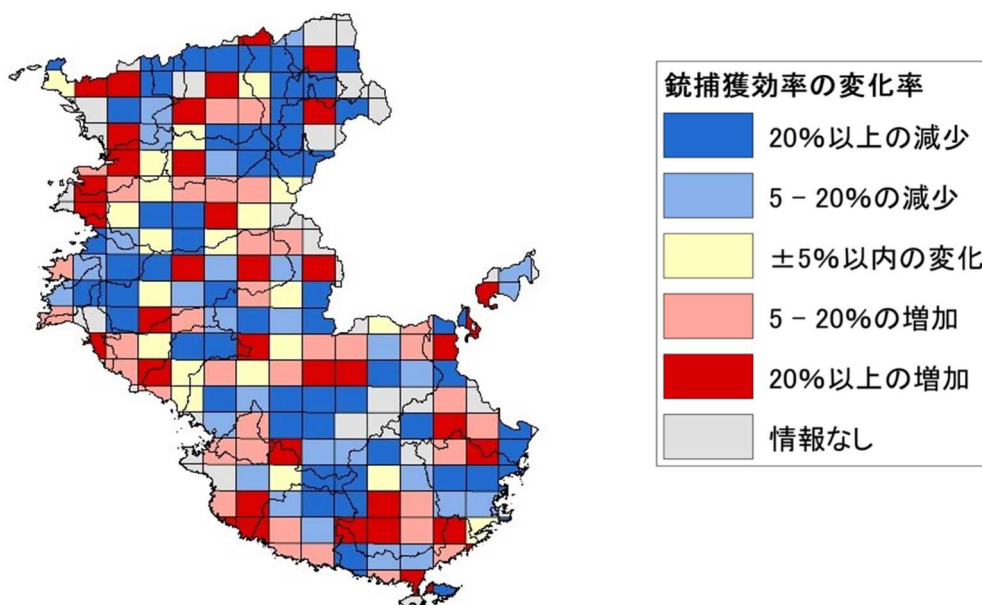


図 17 イノシシの推定生息密度（平成 27 年度、令和元年度）

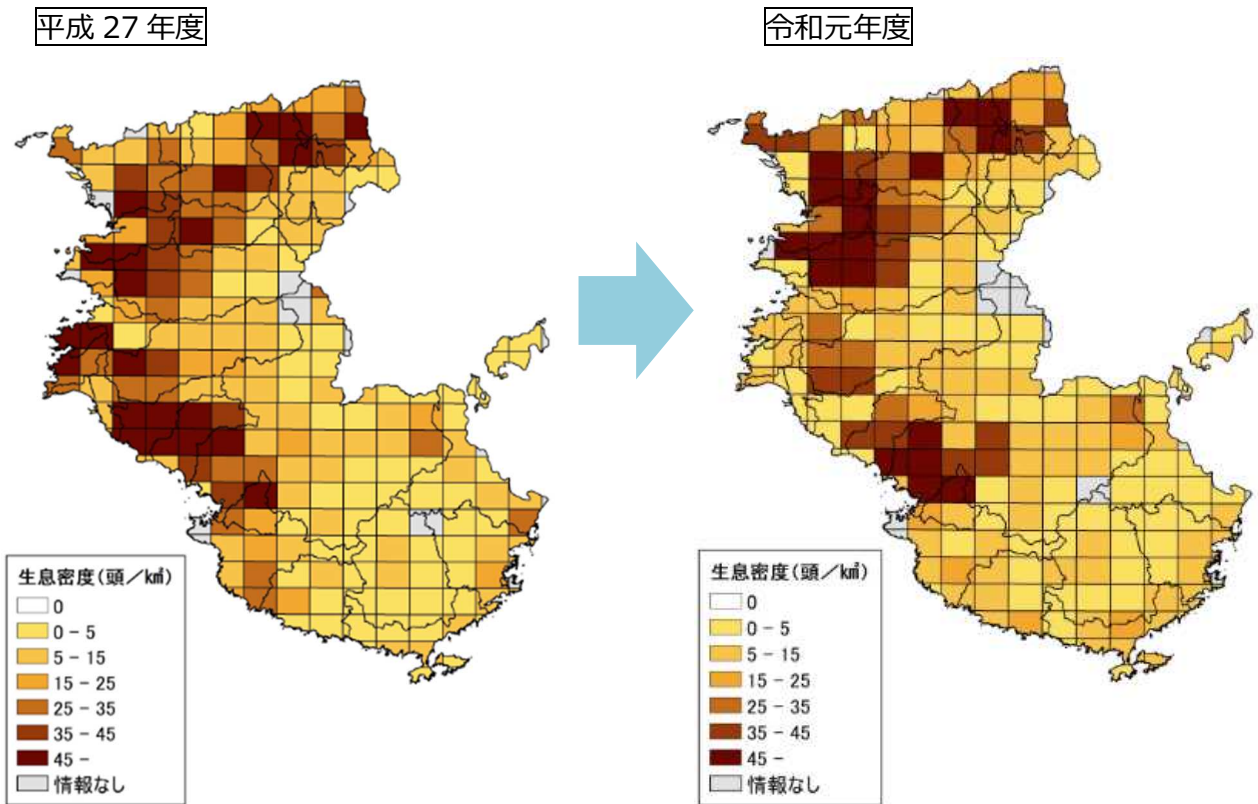
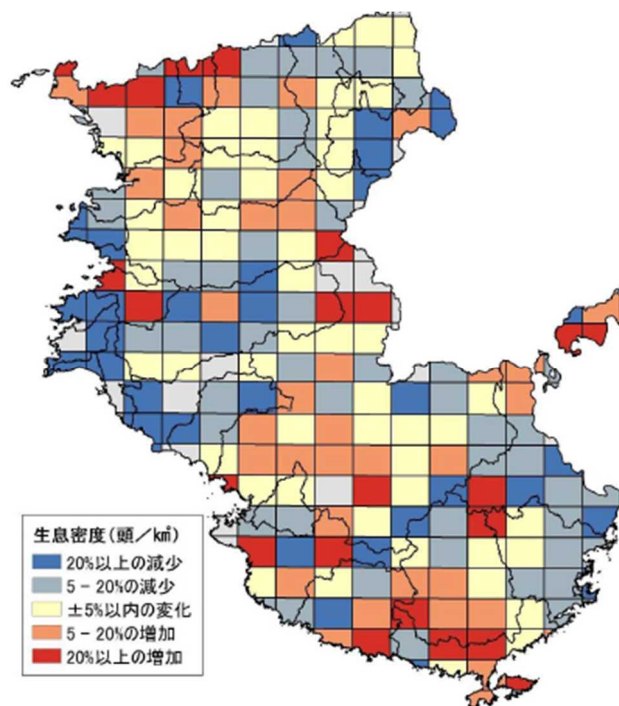


図 18 イノシシの推定生息密度の変化率（平成 27 年度から令和元年度）



11. イノシシの推定生息数の将来予測（ベイズ法による）

表 8 計画期間中、前計画と同様の年間 17,000 頭（期間後 8,000 頭）捕獲とした場合の生息個体数の推定値

（単位：頭）

年度	生息個体数の推定値と予測値					捕獲数
	90%信用区 間(下限)	50%信用区 間(下限)	中央値	50%信用区 間(上限)	90%信用区 間(上限)	
平成24年度末 2012	27,681	38,841	54,950	85,430	170,443	14,000
平成25年度末 2013	27,444	37,946	53,997	85,724	172,295	13,049
平成26年度末 2014	27,991	38,463	54,934	87,183	175,054	13,652
平成27年度末 2015	30,315	41,712	59,243	93,390	181,827	14,531
平成28年度末 2016	29,864	41,245	58,293	91,826	178,928	18,633
平成29年度末 2017	29,526	41,055	57,884	89,927	173,409	19,860
平成30年度末 2018	26,415	35,960	51,327	82,238	166,575	15,835
令和元年度末 2019	26,549	36,842	52,458	82,777	164,433	19,820
令和2年度末 2020	23,804	33,727	48,351	76,762	157,462	19,339
令和3年度末 2021	19,606	30,410	45,043	72,798	146,736	17,000
令和4年度末 2022	13,334	25,943	41,327	69,066	138,009	17,000
令和5年度末 2023	3,725	20,092	37,304	65,470	131,256	17,000
令和6年度末 2024	0	11,912	32,559	61,793	124,993	17,000
令和7年度末 2025	0	559	26,733	58,285	119,651	17,000
令和8年度末 2026	0	0	19,475	54,725	115,325	17,000
令和9年度末 2027	0	0	18,837	59,987	120,845	8,000
令和10年度末 2028	0	0	18,192	65,581	125,645	8,000
令和11年度末 2029	0	0	16,870	71,453	130,475	8,000
令和12年度末 2030	0	0	15,316	77,308	134,720	8,000
令和13年度末 2031	0	0	13,218	82,771	138,556	8,000

表 9 計画期間中、年間 16,000 頭捕獲（期間後 8,000 頭）とした場合の生息個体数の推定値

（単位：頭）

年度	生息個体数の推定値と予測値					捕獲数
	90%信用区 間(下限)	50%信用区 間(下限)	中央値	50%信用区 間(上限)	90%信用区 間(上限)	
令和2年度末 2020	23,804	33,727	48,351	76,762	157,462	19,339
令和3年度末 2021	19,606	30,410	45,043	72,798	146,736	17,000
令和4年度末 2022	14,334	26,943	42,327	70,066	139,009	16,000
令和5年度末 2023	6,227	22,429	39,489	67,439	133,188	16,000
令和6年度末 2024	0	16,156	36,222	64,816	127,626	16,000
令和7年度末 2025	0	7,541	32,287	62,435	122,685	16,000
令和8年度末 2026	0	0	27,459	59,972	119,001	16,000
令和9年度末 2027	0	0	29,341	65,890	124,205	8,000
令和10年度末 2028	0	0	31,563	71,707	128,603	8,000
令和11年度末 2029	0	0	34,157	77,863	133,657	8,000
令和12年度末 2030	0	0	36,851	84,055	137,369	8,000
令和13年度末 2031	0	0	40,618	89,615	142,295	8,000

12. 県下のツキノワグマ保護区域

図 19 ツキノワグマ保護地域（くくりわな12cm規制を解除しない地域：色付き箇所）

